

砂防事業 事後評価結果

担当課 : 徳島県砂防防災課


担当課長名 : 大和 章人

事業の概要

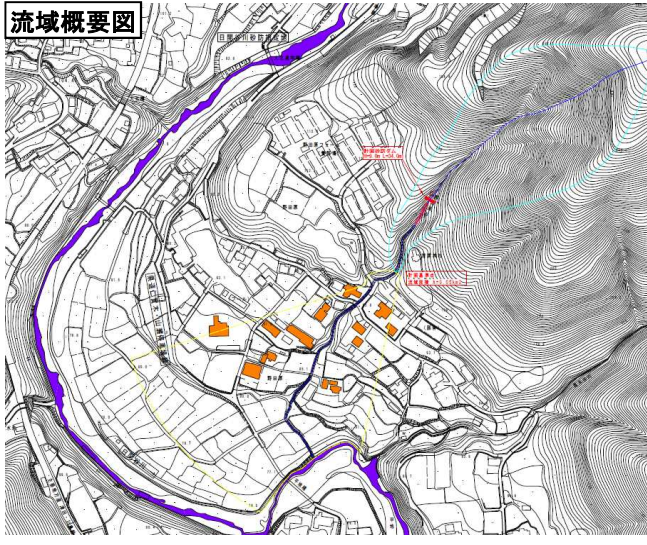
事業名	野田原谷通常砂防事業	事業区分	【砂防事業】通常砂防事業(補助)	事業主体	徳島県
事業箇所	阿波市市場町野田原	箇所名	一級吉野川水系日開谷		
事業概要	不透過型砂防堰堤 1基(H=9.0m L=34.0m V=1,120m ³), 流路工 L=20.0m				
事業の目的・必要性	<p>本溪流は、平均河床勾配が1/2と急勾配の溪流である。流域内には至る所で不安定土砂が厚く堆積しており、出水時に土石流が発生すると下流の人家、県道、市道に甚大な被害を及ぼす恐れがある。</p> <p>このため砂防堰堤工、流路工を施工することで土砂災害を抑制し、国土を保全し、民生の安定を図るものである。</p>				

総事業費 123 百万円


事業概要図・写真




野田原谷通常砂防事業



流域概要図



本堤工



流路工

事業評価結果

評価項目	評価内容
①費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	・計画全体事業費120百万円 → 精算全体事業費123百万円 計画工期H21年度～H24年度 → 実施工期H21年度～H26年度 着手時B/C 5.2 → 完成時B/C 6.2
②事業の効果の発現状況	・砂防堰堤の完成に伴い土砂災害による被害の軽減された。 ・人家12戸、一般県道に賀木・山瀬停車場線、避難路に位置付けられている市道が保全され、災害時の避難路が確保された。 ・ソフト対策である土砂災害警戒区域の指定と併せて、地域の総合的な防災力の向上が図られた。
③事業実施による環境の変化	・施工時には積極的な発生土の工事間流用を行い、環境負荷を最小限に抑える。
④社会経済情勢の変化	・H26.8月に発生した広島豪雨災害により土砂災害に対する防災意識が一層高まっている中、当事業の実施においては土砂災害に対して地域の安全や避難路を確保しながら、土地利用や保全対象に影響を与えることなく、防災面の向上に寄与している。
⑤課題と今後の事業への反映	・当該箇所は施工時に発生する土砂の工事間流用の調整に時間を要した。今後は早い段階から工事間流用先の調整を行い、スムーズな工事の施工を図る。

費用対効果	区分	基準年	B/C	総費用(百万円)		総便益(百万円)	
	着手時	平成21年	5.2	113	工事費	583	人家12戸、道路870m
完成時	平成27年	6.2	146	工事費	909	人家12戸、道路870m	

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

※保全対象については、着手時は概略調査、完成時は詳細調査結果に基づいているため、現地状況により数値が異なる場合がある。